

国産コロナ・ワクチンはどうした？

清水 勝

ようやく高齢者への外国製「コロナ・ワクチン」接種が始まった。

日本は世界有数の科学技術国であるはずなのに、どうして素早くワクチンが製造できず、輸入に頼らなければならぬのか。国や国内メーカーは何をしているのか、頼りなさよりも怒りすら覚える。

調べてみるとそれなりの背景と理由がある。

① 日本はワクチン開発国であったものの、一九七〇年代以降は種痘ワクチンをはじめワクチンによる重篤な副反応があり、裁判により国側の敗訴となった。その影響で国、国民、メディア、メーカー等が予防接種に消極的になり、国内の研究・開発・製造力が弱まった。

なお、一九九四年には予防接種法の改定があり、接種要件が「義務」から「勧奨」に緩和された。

確かにワクチン接種による重篤な副反応が発生する確率は、非常に低いもののゼロでないことは事実である。一方、ワクチンを接種しなかったために、感染が拡大され、命が失われたり重症化や後遺症が生じたりするの
もまた事実である。

ワクチンの効用をしっかりと受け止め、ワクチン接種の副反応には

明確な基準を公開し、速やかな無過失補償をすることが重要である。

② 国内に感染症の大流行という経験がないため、新型感染症問題が「国の危機管理の問題であり、ワクチンは国と国民を守るための国防の一つである」という意識が欠如している。

例えば、今回の新型コロナについて、日本では通常の対応で済ませられると考えていた。ところが欧米や中露では「今や戦時だと捉えて、やるべきことは全てやろう」との意識が形成された。

現在の緊急事態に対応すべく国産ワクチン製造は、①アンジエス・グループが年内に最終段階の治験を行う予定。②塩野義製薬G。③第一三共G。④KMバイオロジクスG。②③④は第一段階から第二段階の治験を行っている。(注)

なお、政府は二〇二〇年度の第二次補正予算に、生産設備等の費用を補助する「ワクチン生産体制緊急整備基金」を一二七億円計上している。

注：各グループの構成

- ① アンジエス・大阪大・タカラバイオ
- ② 塩野義製薬・国立感染症研究所・UMNファーマ
- ③ 第一三共・東京大
- ④ KMバイオロジクス・東京大・国立感染症研究所・医療基盤研究所